

NO21

松阪空襲の爪痕

所在地は松阪市上川町（個人所蔵）（三交バス「上川口」下車徒歩5分）



1945年2月4日の午後2時すぎのことでした。松阪市上空にもB29が16機現れ、焼夷弾や爆弾を投下しました。

市内の軍需工場をねらったと思われる攻撃でしたが、西風にあおられ、焼夷弾や爆弾は高田、久保、上川周辺に落下し、あちこちで火の手が上がりました。

上川地区では、この攻撃で約70軒の家のうち43軒が焼け、5人の尊い命が奪われました。

焼夷弾は1メートルほどの六角形の筒の中に樹脂油がつまったもので、落ちると火を噴くしくみになっていました。

この柱に残された六角形の跡は、この空襲の際の焼夷弾が屋根を突き破って、床の間の柱に突き刺さった跡なのだそうです。

刺さった焼夷弾も、勢いよく燃え出したため、布でくるんで急いで火を消したそうです。

この柱は松阪空襲の爪痕として、跡の残る部分だけを切り出し、今も大切に保管されています。